

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度

(対象期間: 2023年8月～2024年7月)



発行日: 2024年 9月 3日

西九州建設株式会社



Let's create a living environment

rich with humanity

目 次

1. 組織の概要		P. 1
2. 認証・登録の対象範囲		P. 1
3. 環境経営方針		P. 2
4. 実施体制		P. 3
5. 環境経営目標		P. 4
6. 環境経営計画		P. 5
7. 環境経営目標の実績		P. 6
8. 環境経営計画の取組結果と その評価、次年度の取組内容		P. 7～P. 11
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果並びに違反、訴訟等の有無		P. 12
10. 代表者による全体評価と見直しの結果		P. 12

1. 組織の概要

1) 事業所名 西九州建設株式会社
代表者氏名 代表取締役 福島 豊

2) 所在地 本 社 〒846-0002 佐賀県多久市北多久町大字小侍671-3

3) 環境管理責任者 工務部 筒井 祐也
担当者氏名 総務部 福島 かおり
連絡先 TEL 0952-74-3591 FAX 0952-74-3592
Eメールアドレス nishikyu@po.saganet.ne.jp

4) 事業の内容 造園工事業、土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、舗装工事業
水道施設工事業、解体工事業

5) 事業の規模 2023年度総売上額:70百万円

2022年度		単位	本社
	従業員数	人	7
	延床面積	m ²	63
	倉庫床面積	m ²	29

6) 事業年度 8月～翌年7月

2. 認証・登録の対象範囲

1) 対象事業所 本社（全組織・全活動）

2) 活動 造園工事業、土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、舗装工事業
水道施設工事業、解体工事業

環 境 経 営 方 針

【経営基本理念】

西九州建設株式会社は、「常に顧客の要望を満たしたえず技術の研鑽に努め共存共栄の精神をもって人間性豊かな生活環境づくりに貢献する」を社是とし、事業を行っております。当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努め、広く地域・社会に貢献します。

【環境保全への行動指針】

1. 当社は造園工事、官民の樹木管理、公園管理、土木工事等の事業活動を通じて、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め継続的な改善に努めます

2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域等の要請に協力します

3. 造園工事、維持管理業務、土木工事等の事業に於いて環境に与える影響を削減するため、次の事項に対して優先的に取り組みます

① 二酸化炭素排出量の削減

（空調・車両管理等による、電気使用量・燃料使用量の削減）

② 工事等の業務で排出される一般及び産業廃棄物の適切な処理

③ 節水活動による水使用量の削減

4. 環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます

この環境方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します

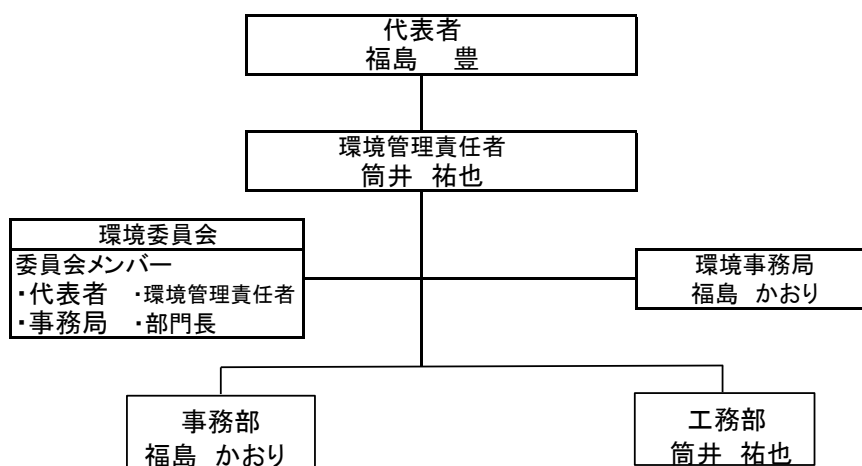
制定：令和元年 9月18日

改定：令和3年 5月 1日

西九州建設株式会社

代表取締役 福島 豊

4. 実施体制



	役割・責任・権限
代表者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営方針の策定・見直し - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直し、指示 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認
環境事務局(連絡担当者)	- 環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境委員会	- 環境経営計画の審議 - 環境活動実績の確認・評価(1回/年及び、臨時招集)
部門長	- 自部門における環境経営方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 - 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 - 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 - 試行・訓練を実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 環境経営目標(2023年度)

当社における環境目標は以下の通りです。
令和4年度の実績を基準値とし、表の数値はそれぞれ削減後の目標数値を示しています。

活動期間：2023年8月～2024年7月)

環境経営目標		サト区分	単位	新基準値 (R4年度実績)	目標		
					2023年度	2024年度	2025年度
					(基準年度の 1%削減)	(基準年度の 2%削減)	(基準年度の 3%削減)
					2023年8月 ～2023年7月	2024年8月 ～2025年7月	2025年8月 ～2026年7月
1 二酸化炭素排出量の削減(全社)		全社	kg-CO ₂	30,094	29,793	26,806	26,533
		事務所		4,890	4,841	4,383	4,383
		現場		25,204	24,951	22,378	22,150
	①電力使用量の削減	事務所	kWh	3,509	3,473	3,438	3,403
		現場		22,343	22,119	21,896	21,672
	②燃料使用量の削減 (ガソリン)	事務所	ℓ	564	558	552	547
		現場		3,080	3,049	3,018	2,987
	③燃料使用量の削減 (軽油)	現場	ℓ	3,076	3,045	3,014	2,983
			総量(L/売 上件数	46.60	46.13	45.66	45.20
	④燃料使用量の削減 (灯油)	事務所	ℓ	800	792	784	776
2 廃棄物搬出量の削減							
	①一般廃棄物搬出量の 削減(可燃ゴミ)	事務所	kg	155	153.4	151.9	150.3
	②産業廃棄物搬出量の 削減	現場	t	43.52	43.08	42.64	42.21
	③産業廃棄物のリサイクル 率の向上	現場	%	98.7	100	100	100
3 水使用量の削減		事務所	m ³	28	27.7	27.4	27.1
		現場		350	346.5	343	339
4 農薬類の適正管理		現場	kg	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
5 地域貢献活動の推進		全社	回	2	2	2	2

※ 購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力、2022年度の調整後の排出係数(0.453kg-CO₂/kWh)を使用しています

※ 一般廃棄物排出量は1袋5kgとして計算しています。

※ 水使用量の現場は指定管理分である為、利用者等の増減などで変化します。

※ リサイクル率は産業廃棄物搬出量に対する再資源化の割合です。

6. 環境経営活動計画(2023年度)

1. 二酸化炭素排出量の削減

責任者:環境管理責任者

活動項目	注意事項・確認事項		サト区分/担当者	スケジュール
電気使用量の削減	1	照明が不要な時は消灯を行う	事務所 (福島かおり)	年間を通して
	2	昼休み・不在の時は消灯する		〃
	3	事務所照明の必要な箇所のみを照明する		〃
	4	室内温度を夏季26～28度、冬季は22度を目安にする		〃
	5	夏季はクールビズ、冬季はウォームビズを推奨し、冷暖房を抑える		〃
	6	パソコンやOA機器は省エネ設定を行う		〃
	7	夜間、休日はパソコン。プリンター等の主電源を切る		〃
	8	ノー残業日の設定		〃
ガソリン・軽油・灯油使用量の削減	1	車両・重機のアイドリングストップ	全社 (福島豊)	年間を通して
	2	急発進・急加速・急停車をしない		〃
	3	不要な荷物は積まない		〃
	4	空気圧の適正確認をする		〃
	5	過積載は行はない		〃
	6	工事車両の点検整備	現場 (筒井祐也)	〃
	7	工事車両の効率的な使用	事務所(福島かおり)	〃
	8	冬季はエアコンとの併用を行う		冬季

2. 廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量の削減	1	分別によるリサイクルの推進	事務所 (福島かおり)	年間を通して
	2	ミспリントの防止		〃
	3	両面印刷の促進		〃
	4	コピー用紙裏紙の利用		〃
産業廃棄物排出量の把握	1	廃棄物の分別の徹底	現場 (筒井祐也)	年間を通して
	2	中間処理施設の利用の徹底		〃
	3	産廃マニフェストの発行、適正な管理にて発生量を把握する		〃
	4	計画的な資材の購入		〃
産業廃棄物のリサイクル率の向上	1	分別によるリサイクルの推進	現場 (筒井祐也)	年間を通して
	2	転用可能な資材の活用		〃

3. 水使用量の削減

節水活動	1	節水ラベルの貼付	全社 (福島豊)	年間を通して
	2	圃場に雨水タンクの設置		〃
	3	節水コマの設置		〃

4. 農薬類の適正管理

管理方法	1	使用量を把握し、保管庫にて適正に管理する	現場 (筒井祐也)	年間を通して
	2	在庫管理の徹底と必要量を発注する		〃

5. 地域貢献活動の推進

地域貢献活動の推進	1	事務所周りの除草、清掃活動をする	全社 (福島豊)	年間通じて
	2	所属団体、公共機関等のボランティアに積極的に参加する		〃

7. 環境経営目標の実績(2023年度) (2023年8月～2024年7月)

環境目標の実績は下記のとおりです。

※2023年度の目標値は令和4年度(2022年度)の実績値に1%削減率を乗じた数値を設定している。

環境目標		単位	基準年 2022年度	2023年8月～2024年7月			
				目標	実績	達成率	評価
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	30,094	29,793	26,032	114.4%	◎
	事務所		4,890	4,841	4,557	106.2%	◎
	現場		25,204	24,951	21,475	116.2%	◎
①電力使用量の削減	事務所	kWh	3,509	3,473	3,464	100.3%	◎
	現場		22,343	22,119	18,603	118.9%	◎
②燃料使用量の削減(ガソリン)	事務所	ℓ	564	558	515	108.3%	◎
	現場		3,080	3,049	2,724	111.9%	◎
③燃料使用量の削減(軽油)	現場	ℓ	3,076	3,045	2,607	116.8%	◎
		総量(L)/ 売上件数	46.60	46.13	45.73	100.9%	◎
④燃料使用量の削減(灯油)	事務所	ℓ	800	792	720	110.0%	◎
2. 廃棄物搬出量の削減							
①一搬廃棄物搬出量の削減(可燃ゴミ)	事務所	kg	155	153.4	150	102.3%	◎
②産業廃棄物搬出量の削減	現場	t	43.52	43.1	97.82	44.0%	×
③産業廃棄物のリサイクル率の向上	現場	%	98.7	100	98.8	98.8%	○
3. 水使用量の削減	事務所	m ³	28	27.7	26	107%	◎
	現場		350	346.5	355	98%	○
4. 農薬類の適正管理	現場	kg	適正管理	適正管理	適正管理	100%	◎
5. 地域貢献活動の推進	全社	回	2	2	2	100%	◎

※二酸化炭素排出量の計算で使用した排出係数は、0.453kg-CO₂/kWh(九州電力 2022年度・調整後)を使用した。

※結果の評価 達成率(%)=目標/実績 ◎:目標達成100%以上 ○:95%以上 △:90%～95% ×:90%未満(是正)

8. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組計画

1.二酸化炭素排出量の削減

活動項目		実施状況				年間の評価	次年度の取組計画
		8月～ 10月	11月 ～1月	2月～ 4月	5月～ 7月		
電気使用 量削減	照明が不要な時は消灯を行う	○	○	○	○	昼休みの消灯について実施されてないことがある。電話対応や来客対応の必要がある。夏場や冬季には、エアコンの使用が増え、電力の使用量が増加した。	継続して行っていく。不在時の時は消灯を行うが、昼休みの消灯は、実施できないようである。主電源については、電源を切るようにする。エアコンの使用で、電力量は増加するが、灯油は減少している。何よりも身体への負担にならない様に、エアコンの使用は行う。昼休みの電気の消灯は、次年度より削除する。
	昼休み・不在の時は消灯する	△	△	△	△		
	PCの消し忘れなくす	○	○	○	○		
	事務所照明の必要な箇所のみを照明する	○	○	○	○		
	室内温度を夏季26～28度、冬季は22度を目安にする	○	○	○	○		
	夏季はクールビズ、冬季はウォームビズを推奨し、冷暖房を抑える	○	○	○	○		
	パソコンやOA機器は省エネ設定を行う	○	○	○	○		
	夜間、休日はパソコン。プリンター等の主電源を切る	○	○	○	○		
軽油使用 量削減	車輛・重機のアイドリングストップ	△	○	○	○	寒い日や暑い日に車両にて休憩を取ることがあり、アイドリングストップが実施されていなかった。	継続して行っていく。現場に休憩施設がないので、体調管理の為、車両のエアコンの使用は認める。
	急発進・急加速・急停車をしない	○	○	○	○		
	不要な荷物は積まない	○	○	○	○		
	空気圧の適正確認をする	○	○	○	○		
	過積載は行はない	○	○	○	○		
	工事車両の点検整備	○	○	○	○		
	工事車両の効率的な使用	○	○	○	○		
灯油使用 量削減	冬季はエアコンとの併用を行う	—	○	○	—	エアコンの併用を実施	エアコンの併用を行う。

2.廃棄物排出量削減

活動項目		実施状況				年間の評価	次年度の取組計画
		8月～ 10月	11月 ～1月	2月～ 4月	5月～ 7月		
一般廃棄物	分別によるリサイクルの推進	○	○	○	○	分別については、徹底されてはいる、ミスプリントも減少	分別箱の設置の継続と印刷時のプレビューの活用を行う。
	ミスプリントの防止	○	○	○	○		
	両面印刷の促進	○	○	○	○		
産業廃棄物	廃棄物の分別の徹底	○	○	○	○	産業廃棄物については、中間処理業者の利用とリサイクル材の使用ができた。	産業廃棄物の適正管理とリサイクル向上に今後も努める。
	中間処理業者の利用の徹底	○	○	○	○		
	産廃マニフェストの発行、適正な管理にて発生量を把握する	○	○	○	○		
	計画的な資材の購入	○	○	○	○		
	分別によるリサイクルの推進	○	○	○	○		
	転用可能な資材の活用	○	○	○	○		

3.水使用量削減

活動項目		実施状況				年間の評価	次年度の取組計画
		8月～ 10月	11月 ～1月	2月～ 4月	5月～ 7月		
上水	節水ラベルの貼付	○	○	○	○	徹底でき目標達成	夏場の樹木への灌水について貯水の活用
	圃場に雨水タンクの設置	○	○	○	○		
	節水コマの設置	○	○	○	○		

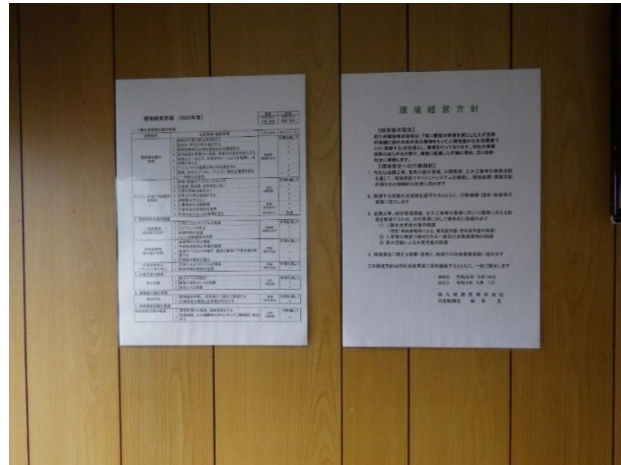
4.農薬類の適正管理

活動項目		実施状況				年間の評価	次年度の取組計画
		8月～ 10月	11月 ～1月	2月～ 4月	5月～ 7月		
管理方法	使用量を把握し、保管庫にて適正に管理する	○	○	○	○	目標値達成	適切な時期の使用量の発注を行う。
	在庫管理の徹底と必要量を発注する	○	○	○	○		

5.地域貢献活動の推進

活動項目		実施状況				年間の評価	次年度の取組計画
		8月～ 10月	11月 ～1月	2月～ 4月	5月～ 7月		
推進	事務所周りの除草、清掃活動をする	○	－	－	○	積極的に取り組んでいる	継続して行っていく。
	所属団体、公共機関等のボランティアに積極的に参加する	－	○	－	○		

○:実施できた △:十分とは言えなかった ×:不十分であった



環境経営方針・環境経営計画の掲示



電気消し忘れ防止の表示



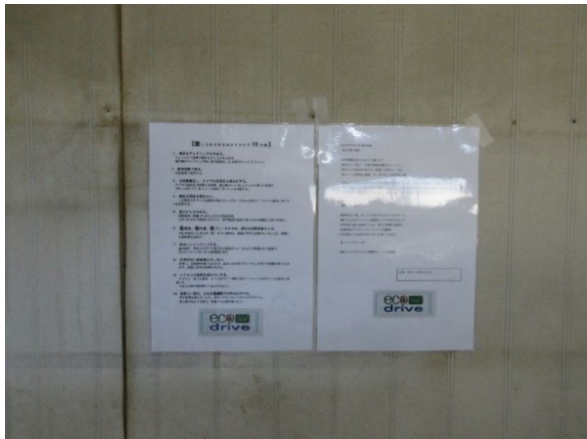
電気消し忘れ防止の表示



エアコンの設定温度の表示



温度計設置で温度管理



エコドライブ10カ条の表示



ゴミの分別



水の節水表示



ゴミの分別



事業者内での観葉植物によるCO2削減



ボランティア活動(花苗植付)



ボランティア活動(花苗植付)



ボランティア活動(花苗植付)



ボランティア活動(花苗植付)



ボランティア活動(水路除草)



ボランティア活動(除草草処分)

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に適用される環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	定義・対象工事・建設業を営む者の責務・分別解体
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・搬出 マニフェストの交付・回収・保管の訂正処理
道路交通法・道路運送車両法	安全運転・車両の点検整備・交通の危険防止
消防法	消防用設備の設置、維持・火気の使用・避難訓練の実施
労働安全衛生法	事業者の責務・労働者の責務・作業の管理・健康診断 教育・計画の届け出・法令の周知
自治体の条例	事業者の責務

令和6年9月に上記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 評価

エコアクションの取組を行い始めて5期目が経過し、社員全員がCO2削減に向けて前向きに取り組んでおります。全社でのCO2削減は、前年度対比は、14%減で、目標値は、達成しており、効果は出ているように思われます。電気使用量・燃料費は、月別では、気候変動等により目標値をクリア出来なかった月もありますが、年間を通じてはクリアしております。産業廃棄物搬出量については、事業内容により変動する為にクリアできない部分がありますが、適切な処理を行っており受容範囲と思われまふ。又昨今の温暖化により、夏場のエアコン使用や、冬場の寒さ対策については、エアコンの使用を認めており社員の体調管理については、心身の健康を第一に心掛けております。以前から、使用機材のバッテリー化を試みておりますが、今期も台数を増やして作業を行っております。音が静かですので、体への影響はかなり軽減され効果を実感しています。又住宅地では、騒音を軽減するため作業には欠かせない機材でもあります。年毎の事業内容により目標に達しない年もありますが、少しでも削減できる方法を全社員で模索しながら事業を行っております。「継続は力なり」と言いますように前向きに何事も取り組み、緑を通じて人間性豊かな生活環境づくりに貢献していきたいと思っております。

2. 見直しの結果

- ①環境経営方針
継続する
- ②実施体制
継続する
- ③環境経営目標・環境経営計画
継続する